

様式第2号（第5条関係）

令和7年5月26日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦様

栗山町議会議員

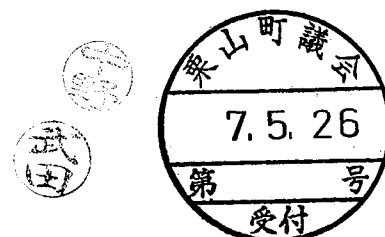
齊藤義崇



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 令和7年5月25日
- 2 旅行先 神奈川県
- 3 目 的 議会広聴活動について
- 4 関係書類 別紙のとおり



日 時	令和7年5月25日（15：45～17：15）
視 察 先	神奈川県海老名市
調査事項	議会における広聴広報活動の本質とこれからの活用のあり方について（研修会を受講・参加）
対 応 者	一般社団法人 地方公共団体政策支援機構 上席研究員 渡辺 太樹 氏
1. 視察目的	栗山町では、今期（令和5年度）から広報広聴機能の強化を目的に行った。広聴機能の強化は私の公約でもあり、よりよい広聴小員会の活動が充実するように、研修を受けることをねらいとした。
2. 視察内容	渡辺上席研究員から、特に議会の広報広聴機能における広聴機能について、今後の栗山町議会の充実した活動となるよう依頼をしており、広報広聴機能の充実が研修のテーマとなった。加えて何が大切であるのか。その要点について詳しく解説があり、数値分析の重要性や栗山町の実数値の実例も講習のなかで説明がなされた。議会基本条例の記載についても再確認され、我々研修を受けた議員と今後の活動について示唆される場面が多い研修であった。
3. 主な質疑	地方議員の資質について、再認識を深めるための質疑、栗山町議会の執行部との質問や質疑の現状について説明ののち、研修内容に照らし合わせた質疑が、数度行われた。私も、研修内容について理解を深めながらも、疑問点について現状をお伝えしながら講師と質疑により広報広聴機能及び、今後の議会改革について質疑を行った。
4. 考 察 （感想、政策提言、課題など）	そもそも広報広聴を実施すること自体が目的ではない。 住民の声を反映させ、よい政策を行うために議会活動は行われている。ともすると議会の手段が目的化していないか検証する必要性を感じた。広聴機能における報告会の参加人数や実施を義務的に行うことが、それである。反省すべき点を多く抱いた。 総合計画が予算に活かされているかについて、考える機会を得た。地方の過疎や経済の低迷について、待ったなしである。効果

的かつ機動的に予算が組み立てなければならない。予算に対する議会の検証について、その重要性を研修において再認識する機会となった。講師は度々、栗山町のあらゆる角度から、総務省のデータ、町が公開しているアンケート結果を用いて、我々に示唆と指導をしてくれた。日頃の考えを再確認でき、今後の議会活動に活かしていかなければと感じた。

仮説と論点の設定

政策反映については、3つの着眼点①誰に②何を③どうやって聴く／伝えるのか、について解説があり、基本的な事項について理解を深めた。地方の人材の不足や民衆意見との乖離やジレンマはあるが、それを超えて適格な現状と課題の掌握、何を望んでいるのか、総合計画、重点施策のありようについて、吟味しながら質問や質疑、普段の議員活動を行うことが重要であると説明され、まさにその通りであると眼から鱗であった。

無料データを活用し仮説を立てることの重要性、議会基本条例に立ち返り、年齢の隔たりを超えた地方の生き残りについて、広報広聴機能の必要性のみならず、今後の議会・議員活動に向けて反省すべき点と、責任があることについて認識される、意義深い研修となった。